

人類の歴史で最も大きな脅威といわれる気候変動 ヨーロッパで感じた熱気を日本でも!!

Interview

日本における気候変動危機の認知度向上へ向けに全国講演ツアーを展開し、わずか数か月で47都道府県での講演を達成した谷口たかひささん。イギリスとドイツで学び暮らした経験から、ヨーロッパにおいて10代の若者たちが自身の問題として地球環境の改善に立ち上がる姿に直面。その熱意と現実を自分の言葉で伝え、若者を中心に大きな支持を集めている。

30歳を超えたばかりという彼の気候変動問題に取り組むスタンスやロジックは、これまでの環境専門家や活動家とどこが違うのか?! また、彼の言葉が何故、若者たちを惹きつけるのか?! 気候変動に関するユニークなメッセージに耳を傾けよう。



環境活動家 谷口 たかひさ

「知らない人が多い」ということに希望を感じる そして、みんなが知れば、必ず変わる!!

日欧における気候変動に対する温度差とは?!

—— イギリス留学後、ドイツに移住、2019年9月に帰国されて、気候変動の問題を中心に講演活動に注力されていますが、その原動力は何なのでしょう?!

谷口 「イギリスやドイツでは、大人も子どもも多くの人たちが気候変動の問題に確実に危機意識を持っています。ところが日本では、残念ながら危機感以前に関心を示す人すら少ないという状況にあります。要は、みんな知らないのです。そこで、まずは「みんなが知っている」という状態をつくりたいというのが、いまの僕の思いです。とはいえ、「知らない人が多い」といふことは希望も感じています。この「知らない」の行動しないのであれば絶望的ですが、「知らない」のあれば伸びしろがある!! だから、「みんなが知れば、必ず変わる」と信じて活動しています。

—— ヨーロッパでは、子どもたちを含めた若い世代も気候変動の問題に立ち上がっていますよね。日本との違いはどんなところでしょうか?

谷口 「一番の違いは、彼ら彼女たちが自分のことを「子ども」と認識していかないことだと思います。その背景には、大人たちが「子ども扱いしない」という環境があげられます。だから、社会の一員としての自覚が生まれるのではないのでしょうか。同時にそれは「大人の差」でもあります。「子どもは大人の背中を見て育つ」といわれますが、ヨーロッパの大人たちは「社会は変えられる、悪ければ是正すればいい」という認識を持って行動しています。

—— そのような若い世代の象徴ともいえるのが、スウェーデンの環境活動家グreta・トゥーンベリさんですね。彼女の呼び掛けで始まった「Fridays For Future(FFF: 未来のための金曜日)」をはじめ、何度かお会いしたことがあるのですがその印象は?

谷口 「グローバル気候マーチをはじめ、4回ほどお会いしていますが、目の鋭さが印象的でした。サムライのような目をしていると感じました。侍が「対して戦う際には、いずれかが死に至る」とことを覚悟しているといわれまふ。その「必死」な覚悟」といつか、「腹を括る」という姿勢を感じさせてくれました。

「経済成長」の真の目的は? お金は無限、モノは有限というアンバランスな天秤

—— 気候変動の解決に向けて「CO2排出量の削減」が叫ばれていますが、その一方で耳にするのが「経済成長」への懸念です。「これについては、いかがお考えですか?」



谷口 「経済成長」といいますが、ちゃんと説明できる人はどれだけいるのでしょうか?! よく例に出されるのが、GDP。国内でどれだけのお金が出たかを表す指標で、低成長といわれながらも日本のGDPは微増しています。にもかかわらず、国民の所得は減る方。例えば、お父さんの給料が減って、お母さんがパートに出るといふのは、よくあるケースですよ。でも、そのためにお金を払って子どもを預けなくちゃならない。すると、お金が回って、GDPが増える。経済成長とは言えません。経済成長とは何か?! その真の目的を考えていけば、僕は脱炭素と一律背反する問題にはならないと考えています。

「選挙に行こう」の原点は、当事者意識と相互理解

—— 谷口さんは「選挙に行こう」と訴えておられますね。その真意は?!

谷口 「EUなどでは、選挙権を持っていない若者たちが、主体的にデモを行っています。一方、大人を含めて参政意識が乏しいのが日本。そこで「選挙」を起点に参政意識を促すことが目的です。選挙に行かない理由はさまざまですが、特に「無関心」といふのが多いことに危機感を抱いています。その壁を超えるのが、当事者意識を想像することです。女性の問題に男性、障がい者の問題に健常者がというように、当事者以外が相手を理解しようとするれば、世の中は確実に変わります。僕は1時間話をすれば、選挙に行きたくなるような気持ちにさせる自信があります。そのポイントは、行った場合と行かない場合の状況をともにイメージすることだと思います。

【プロフィール】

1988年、大阪府門真市生まれ。関西大学を経て、イギリス・マンチェスター大学へ留学し、その後ドイツに移住。在学中にインターネットビジネスで起業するとともに、プラスチックに依存しない社会を推進することを目的とした貿易会社などを設立。2019年7月23日に報道された『Climate change: 12 years to save the planet? Make that 18 months (気候変動: 地球を守るための期限は、残り12年? いや18か月しかない)』というニュースに衝撃を受け、この問題を日本で本腰を入れて取り組むために、2019年9月に緊急帰国。以来、人類最大の脅威の1つである「気候危機」について、「みんなが知っている」という状態をつくることを目指して全国ツアーを展開。団体「地球を守るう!」代表。



下記 URL にてインタビュー全文掲載
<https://greens-japan-tokyobranch.jimdo.com>